

近江八幡市子ども・子育て支援事業計画の策定に係る ヒアリング調査 まとめ

1 ヒアリング調査の趣旨

「第2期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画」策定における子育て支援の実態を把握するため、ヒアリング調査を実施しました。

2 調査の目的・対象者等

調 査	調 査 対 象 者
調 査 目 的	子育ての担い手である幼稚園や保育所（園）、その他、子育て支援を実施する事業所や施設、団体、利用者等から、保護者向けのアンケート調査では把握できない子どもの現状や課題等をお聞きすることで、幼児期における保育・教育の質の向上と子育て支援のより良い計画の策定を行う
調 査 対 象 者	I. 施設・団体等子育て支援の担い手（担い手） ①認定こども園 ②公私立保育所（園） ③公私立幼稚園 ④小規模保育・家庭的保育施設 ⑤認可外保育施設 ⑥事業所内保育園 ⑦病児・病後児保育事業所 ⑧子どもセンター ⑨子育て支援センター ⑩つどいの広場 ⑪ファミリー・サポート・センター ⑫民生委員・児童委員（主任児童委員） ⑬まちづくり協議会 ⑭放課後児童クラブ ⑮放課後等デイサービス ⑯子育てボランティア II. 施設利用者（子どもセンター・子育て支援センター・つどいの広場・ひかりの子） III. 障がい者当事者・家族団体 IV. 一人親、若年出産した親、高齢出産した親

3 調査方法

I. 市内の施設等に所属する子育ての担い手

- ・施設の長や団体の長へ郵送。
- ・返信用封筒により返送。

II. 施設利用者（子どもセンター・子育て支援センター・つどいの広場・ひかりの子）

- ・施設職員から利用者に聞き取り。

III. 障がい者当事者・家族団体

- ・子ども支援課職員による聞き取り。

IV. 一人親、若年出産した親、高齢出産した親

- ・対象者と接する関係課職員による聞き取り。

4 主なヒアリング結果（新体系ごとに主な意見を整理）

《新・行動目標1》 地域における子育ての包括的な支援体制の構築	
含まれる 施策	1) 地域における子育て支援の充実 2) 保育の充実 3) 子どもの健全育成 4) 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援
	<p>【子育ての悩みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族で生活していて支援が必要となった時。（親が病気になった時など）（担い手） ・“お母さん”の固定観念にしばられている。一時預りがなく、母親の自由が少ない。（担い手） ・幼稚園の保護者の中にも就労している方も多く、できるだけ長い時間保育してほしいと思っている。（担い手） ・学童の受入れが少ない。病気の時、救急に連絡してもすぐ受入れてもらえない。（ひとり親等） ・小さい時よりも集団に入ってから心配なことが増えた。（ひとり親等） ・これから保育園を探して仕事につきたいのですが、保育園に入れるかなど心配。（施設利用者） ・仕事に出たいが待機児童が多いとのこと。子ども園を増やしてほしい。（施設利用者） ・自分（母親）が病気をした時、子供が3人いるので（赤ちゃんも含め）大変だが、夫の仕事も遅く、結局風呂もごはんもしなければならず、しんどすぎる。悩みは夫やママ友や親、支援センターの先生などに話す。（施設利用者） ・身内が近くにいないので、気軽に子どもを預けることができない。（施設利用者） ・父母が近くに住んでいないのでワンオペ育児になる。（施設利用者） <p>【園の利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の園への歩み寄りも大切。要求ばかりでは上手くいかない。育成会が保護者を諫めたり、アドバイスすることもある。（障がい者団体） ・幼稚園、保育園に通っている間は、先生の支援や市の相談体制も充実している。（障がい者団体） ・こども園を利用中。公立の幼稚園との差が気になる。（施設利用者） ・利用しているが、自宅近くの園には空きがなく、入園（転園）できない。（施設利用者） ・幼稚園を利用していますが、預り保育をしてほしい。（施設利用者） <p>【子育て支援全体への意見について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が孤立することがないように、地域で見守りをする。（担い手） ・急な用事や自治会の役で会議に出席する時の小さい子どもの預先。（担い手） ・病児保育の場が少ない。（担い手） ・離乳食教育はよかった。（ひとり親等） ・子育てに関する講座があるとよい。（ひとり親等） ・支援センターがいくつもあってよい。（施設利用者） ・一時保育をもっと増やしてほしい。 ・未就園児の預かり保育がほとんどないので取組んでほしい。（施設利用者） ・おむつ配達はうらやましい。（施設利用者）

《新・行動目標2》 子ども・子育て家庭に対する切れ目のない支援体制の構築

含まれる
施策

- 1) 相談支援、情報提供の充実
- 2) 妊産婦・乳幼児に関する保健対策の充実
- 3) 「食育」の推進
- 4) 思春期保健対策の充実
- 5) 小児医療の充実

【子育ての悩みについて】

- ・なかなか相談する場所や時間が持てないこと。(担い手)
- ・母が人とかかわることが苦手。(子どもと遊べない)(担い手)
- ・あふれる情報の中で、マニュアルやモデルを見つけ、その形にあてはめようとしている姿も多くみられる。(担い手)
- ・相談したい、話したい、と自分が思っておられても、自分から集いの場に行ったり、誰かに話を聞いてもらうための行動をとる事ができにくい、と感じておられる方が多い。(担い手)
- ・子育てについて相談する相手(家族、友人など)が少ないのか、保育士に相談をされる事も多い。関係機関などに相談する事に対しては抵抗があるようなので、もう少し気軽に相談できる環境が必要だと感じる。(担い手)
- ・情報がたくさんある中で、本当に自分の子にとって必要な情報が何なのかがわからない。(担い手)
- ・ネットなどの情報量の多さととまどう人も多いと感じる。(担い手)
- ・早朝や夜中に子どもの異変に気づいた時、相談する窓口があったら良いと思う。(担い手)
- ・保護者だけで全てを抱えてしまい、保護者が疲れてしまっているように見えることが気になる。(担い手)
- ・同居の祖父母に相談している。(ひとり親等)
- ・成長や発達の具合は常に気になる。(施設利用者)
- ・イヤイヤ期の子どもの対応に日々疲れている。(施設利用者)
- ・発達段階に合った子どもへのかかわり方ができているか。(施設利用者)
- ・怒りスイッチが急に入って、対応が大変な時がある。(施設利用者)
- ・離乳食を食べてくれない悩み。(施設利用者)

【子育て支援全体への意見について】

- ・自分が行きやすい子ども、子育て支援センターがいつでも開いていること。(担い手)
- ・困っていることを話す場所が少ない。悩みを共有してくれる場所が少ない。(知らない)(担い手)
- ・幼稚園や保育所などの情報が必要。(入園、入所などの募集内容などについて)(担い手)
- ・特に発達の遅れを相談できるような場所が身近にあるとよい。また、専門家だけでなく、何気ない悩みを話せたり、色々な情報を教えてもらえるところを求めている。(担い手)
- ・保護者が気軽に相談できる場所が少ない。(障がい者団体)
- ・市のサービスや子育ての施設の一覧をもっとわかりやすくしていただけるともっと利用しやすい。(施設利用者)
- ・妊婦健診の補助金を増額してほしい。(施設利用者)
- ・離乳食教室の内容をもっと機会を増やしてほしい。(施設利用者)

《新・行動目標3》 子どもが健やかに成長するための教育・保育環境の整備

含まれる 施策	1) 次代の親の育成 2) 子どもの生きる力の育成に向けた学校の教育環境等の整備 3) 家庭や地域の教育力の向上 4) 子どもを取り巻く有害環境対策の推進
------------	--

【子育ての悩みについて】

- ・(メディアやスマホの普及など) 社会のモラルの低下のなかでしつけや教育がやりにくいこと。(担い手)
- ・生活場面においてのしつけ(食事、排泄、睡眠など)。(担い手)
- ・「子どもの命を守る」ことに困難さを感じている。いじめ問題、事故や不審者に遭遇しないかという不安。学校-家庭の隙間時間帯である「放課後」に「子どもの命を守るため」に放課後児童クラブの見守り保育がとても必要とされていると強く感じる。(担い手)
- ・スマホの普及。1才程度のお子さんでも操作方法をわかっていたりする。子育てにおいて困った時に便利に使えるツールではあるが、たまに子どもの要求のままになりがちの時もある。(担い手)
- ・保護者が子ども中心でなく、自分中心である事。(担い手)
- ・大人(保護者)のマナーやモラルの低下。(担い手)
- ・子どもが言うことをきかない。(ひとり親等)
- ・きょうだい喧嘩がはげしくて、おさめ方がわからない。(ひとり親等)
- ・勉強する習慣が身についていない。(ひとり親等)
- ・スマホの使い方。ルールを決めて時間が来たら止めるように言うが、取り上げると激しく泣き出し、手に負えなくなる。(ひとり親等)
- ・上の子は本当に宿題しなくて困る。下の子は就学先に悩むし、今の家庭でのかわりがこれでいいのかなあとあまり自信がない。(施設利用者)
- ・叱り方が上手にできない。2月に第2子が生まれる予定だけど、うまく2人と関わられるか不安。(施設利用者)
- ・核家族で親族も近くにはおらず、夫も残業も多いので、1人で孤独感がある。(施設利用者)
- ・イヤイヤ期でよく泣く事。(施設利用者)
- ・近所あまり同じ世代の子供が少ないので、仲良しの(第3子の)お友達ができるか少し心配。(施設利用者)
- ・全てが初めてなので、これでいいのか心配。(施設利用者)
- ・夜寝てくれない時がたまにあるので、それが辛く感じる。(施設利用者)

【子育て支援全体への意見について】

- ・保育園、学校、学童などの教育レベルの向上。(担い手)
- ・小学校入学とともに、保・幼稚園で許されていたことがダメになる。例えば時間や場所の区切りを集団ですることを求められる。小学校では、それは仕方ないことだと思うが、慣れることができるよう入学前に体験する機会を多く設けてほしい。(障がい者団体)
- ・「幼稚園、保育園」から「小学校」に入学する際に、発達障がい児を取り巻く環境に温度差を感じる。「幼稚園、保育園」では子どもの特性に沿って、生活全体に配慮して関わりをしてくれるが、小学校では学習面の指導が中心になり、子どもの生活全体を見据えた関わりが少ない。(障がい者団体)
- ・発達障がいを理解している教師が少ないと感じることが多い。(障がい者団体)
- ・「保・幼稚園→小学校→中学校→高校」と子どもの生活環境が変わる際の引継ぎが重要。(障がい者団体)
- ・支援者の上手な関わり方を親と教師が共有することにより、家庭と学校で一貫した適切な支援が受けられると思う。(障がい者団体)

《新・行動目標4》 子どもを安全に、安心して育てられるまちづくり

含まれる 施策	<ul style="list-style-type: none"> 1) 良好な居住環境の確保 2) 安心して外出できる環境の整備 3) 防犯・防災体制の充実 4) 経済的負担の軽減
------------	--

【子育ての悩みについて】

- ・車に乗れない人、車がない人が施設を利用しやすい公共交通機関。(担い手)
- ・幼稚園までの距離が遠いので、もうすこし公共交通機関などを整備してほしい。(施設利用者)
- ・虫によくさされるので予防とかしていただくとありがたい。(施設利用者)

【子育て支援全体への意見について】

- ・安心して親子で楽しめる公園が他市に比べて整備されていない。(担い手)
- ・電車や赤コンバスで行けるところが多くて便利。公園、児童館、病院など。(ひとり親等)
- ・保育所もまだ空きがあって入れそうなのでうれしい。(ひとり親等)
- ・遊びに行く場所やイベントが多くてありがたい。(ひとり親等)
- ・遊ぶところがほしい。安土には公園がないように思う。自転車や徒歩で行けるところ。(ひとり親等)
- ・土日祝にあそべるとこない。こどもセンター土日休み。ひこねのこどもセンターに土日祝いている。(ひとり親等)
- ・近江八幡市内に大きな公園を作ってほしい。(施設利用者)
- ・医療費無料はありがたい。(ひとり親等)

《新・行動目標5》 家庭と仕事の両立支援

含まれる 施策	<ul style="list-style-type: none"> 1) 「仕事と生活の調和」の実現のための働き方の見直し 2) 仕事と子育ての両立の推進
------------	--

【子育ての悩みについて】

- ・保護者の父と母の負担がちがすぎて、母だけがしんどくなってしまう事。(担い手)
- ・仕事と子育ての両立。(担い手)
- ・保護者の勤務時間が長くなってきている感じを受ける。送迎時の時の保護者が家におられない事が増える気がする。(担い手)
- ・仕事もしているため、なかなか充分に関わることができていない。(施設利用者)

【子育て支援全体への意見について】

- ・仕事をしている方、子供(兄弟)のいる方、介護をしないといけない方など、保護者も子供に関わる以外の用事が多い。その時に安心して子供をあずけられる場所がほしいと思う。(担い手)
- ・育児と仕事の両立。(施設利用者)
- ・産休、育休後の働く場の確保。(施設利用者)

《新・行動目標6》 社会的援助を必要とする子ども・家庭への支援

含まれる
施策

- 1) 児童虐待防止対策の充実
- 2) ひとり親家庭の自立支援の推進
- 3) 障がい児施策の充実
- 4) 外国人住民への子育て支援の充実
- 5) 子どもの貧困対策の推進

【子育ての悩みについて】

- ・放デイ卒業後の福祉サービスへの不安。日中一時支援事業を行っているところが少ない。(担い手)
- ・自傷、他害行為があり、保護者も子どもも傷ついてしまう事。(担い手)
- ・外国籍の保護者は乳幼児検診や予防接種など、言葉がわからずとまどいがある。(担い手)
- ・生活保護世帯の家庭環境が悪く、入浴は何日かに1回や洗濯が毎日出来ない事、金銭的にも困っている事などで、悪臭がすると学校でいじめられると聞かされる。相談支援員も把握している事だが、保護者がなかなか管理できないため改善されない。(担い手)
- ・虐待とまではいかなくても、親に気を使いすぎたり、親の顔をうかがうことに神経を使っている子は時々みかける。(担い手)
- ・人間関係が希薄になり、貧困や虐待が見えにくい世の中だと感じる。一見すると何の問題もない家庭のように見えるが、小さなサインを感じることもある。(担い手)
- ・障がいの理解がない人から子どもの行動などを見て、親の育て方が悪いと批判される。時には的外れなアドバイスや保護者に対して傷つくことを良かれと思って言われること。(担い手)
- ・貧困の子供のケアが足りていない気がする。発達障がいについての知識が全体的にうすい。(担い手)
- ・保護者が障がいを持っている場合、保護者への支援をどうすれば良いか、どこへつなげばよいか分からない。子どもだけでなく親に対する支援に力を入れる必要がある。→虐待の防止につながると思う。(担い手)
- ・外国籍の方の通訳が少なく感じる。(担い手)
- ・就学前の母親交流の場は大切。情報交換や気持ちの発散の面で非常に有効。孤立を防ぐことにより、虐待防止にも繋がる。小学校に入ってしまうと、障がいを持つ親同士が繋がる機会はほとんどない。(障がい者団体)
- ・外に気持ちや行動を出す(出てしまう)子どもは支援や配慮が届くことが多いが、外に出ない子や他人の指示待ちの子については、支援者が困らないため、IQが高いと、親や教師など誰にも発達障がいを気づかれない場合もある。(障がい者団体)
- ・子どもの発達の遅れが気になる。園の先生や知り合いに相談している。(施設利用者)
- ・私自身、障がいや病気をもっていて、寝こみがちなので、一緒にいてもみていてあげられないことがある。(施設利用者)

【園の利用について】

- ・発達支援課と教育委員会が連携をとることにより、切れ目ない支援に繋がると思う。(障がい者団体)
- ・子どもが保・幼稚園に通っている時期の支援は充実している。(障がい者団体)

【子育て支援全体への意見について】

- ・子育てしにくい子の場合、親は悩んで、どうにも相談できなかつたり、外へいきづらかつたり、ひきこもってしまいがちになり、虐待などにつながるケースも多い。また孤立すればするほど育児に悩み、親子でよくない方へいってしまうので、もっと周りをつながる、地域とつながることが大事だと思われる。(担い手)
- ・同じ思い(発達に課題のある子をもつ親の思い)をもつ親子が安心して過ごせる居場所や、知りあうきっかけづくり。(担い手)
- ・ひかりの子通所やケース検討会などは優れた取り組みだと思う。(障がい者団体)
- ・保育所等訪問は、専門性を持った者が普段の子どもの集団の中での様子を見て、日常をどのように過ごせばよいか保護者や支援者にアドバイスをもらえるので有益だった。(障がい者団体)
- ・軽度の発達特性を持つ子が増えており、普通級にも多く在籍している。そんな中、すこやかサポーター制度の期間が1年から半年に縮小し、教師の手が回らなくなっている。(障がい者団体)
- ・専門性をもって提供される各事業やサービスについて、それらをまとめて情報収集・提供、コーディネートしてくれる人や機関があるとさらに有効。(障がい者団体)
- ・発達検査の検査返しは、検査者の説明が不十分なことがあつたり、保護者が緊張で上手に傾聴できないことがあるので、学校の先生にも同席してもらったほうが良い。(障がい者団体)